

受賞報告

平成 25 年度若手農林水産研究者表彰を受賞

農研機構九州沖縄農業研究センター（作物開発・利用研究領域・農業経営研究グループ）の後藤一寿主任研究員が平成 25 年 10 月 23 日に「若手農林水産研究者表彰」の農林水産技術会議会長賞を受賞しました。若手農林水産研究者表彰制度とは“農林水産業及び関連産業に関する研究開発の一層の発展及び研究開発に従事する若手研究者の研究意欲の一層の向上を図るため、優れた功績をあげた若手研究者又は将来の技術革新等につながる優れた研究業績を挙げた若手研究者に対して、農林水産省農林水産技術会議会長賞を授与する制度”です。

受賞対象となった研究は、品種など新技術を普及する場合、生産者と実需者が意識やニーズを共有することが成功の鍵と考え、技術開発の推進と普及の同時実現を目指したものです。後藤主任研究員は、現場で生産者や実需者のニーズを把握しながら、双方の利害調整を行い、研究成果の普及を促進できる

ことを実証してきました。また、コンソーシアムを設立し、プロモーションのタイミングなどを検証しながら効果的な普及プロセスについても明らかにしてきました。これらの研究や取り組みが6次産業化の推進にも有用な手法であると評価され、受賞したものです。



後藤主任研究員（左）と三輪農林水産技術会議会長
【URL】 http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/131009_1.htm

NARO RESEARCH PRIZE 2013 を受賞

農研機構九州沖縄農業研究センター（水田作・園芸研究領域・雑草防除研究グループ）の大神秀記主任研究員、住吉正上席研究員、小荒井晃主任研究員がNARO RESEARCH PRIZE 2013 を受賞しました。NARO Research Prize は“農研機構の研究職員の研究意欲を高め、研究の活性化につなげるため、理事長が、前年度（今回は 24 年度）の主要な研究成果の中から、社会的、経済的、または学術的にインパクトの高い優れた研究成果を選定し、表彰する”ものです。

受賞対象の普及成果は、北部九州の広範囲の麦作圃場で除草剤抵抗性スズメノテッポウが発生し、代替除草剤だけでは安定的な防除が難しく、深刻な被害をもたらしていることから、浅耕播種、不耕起播種、晩播、大豆との輪作などによる耕種的な埋土種子低減技術を組み合わせて開発した総合防除技術です。

表層の埋土種子を麦播種前に発芽させ、非選択性

除草剤を散布して枯殺後に麦を浅耕播種または不耕起播種するとスズメノテッポウの発生量が大きく減少することを明らかにするなど、持続的に安定して管理できる技術を開発したことが評価され、受賞したものです。



小荒井主任研究員（左）、大神主任研究員（中）
住吉上席研究員（右）

【URL】 http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/research_prize/2013/048734.html